

食事は礼儀正しく膳を据えて行うべき、

膳

ぜん

を

そな

具

え

めし

飯

を

くら

滄

い、

滄

飯

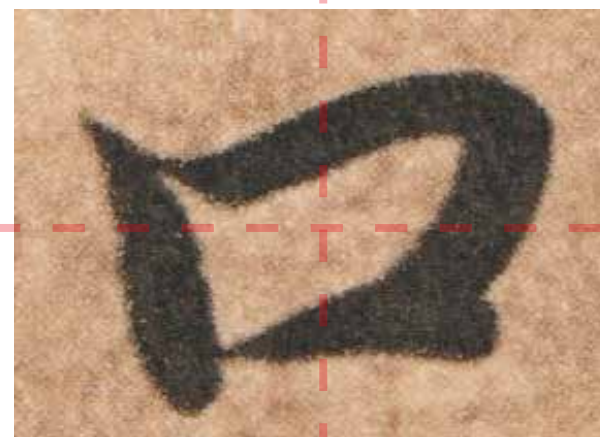
具

膳

元

食べ物が口に合い空腹が満たされればよく、
ご馳走を食べるに及ばない。

口 くち
に かな
い はらわた
腸 み
に み
充 み
つ。



東

陽

人は満腹の時にはどんなご馳走でも食べることはできないが、

飽

あ

けば

身

ほう

宰

さい

に

餓

あ

き、

身

宰

飽

餓

飢えた時には米や麦の粕や糠でも食べる。

飢

う

えれば

糟

そう

糠

こう

にも

厭

た

る。

糟

糠

飢

厭

陽

支

陽

親族や古くからの知人に食事をすすめる場合、
（相手をよく見て年寄りや若いなどによって食事を変えて
その人に合ったものを進めること。）

親

しん

戚

せき

故

こ

舊

きゅう

、

故

舊

※旧と同字

親

戚

真

（親族や古くからの知人に食事をすすめる場合、）
相手をよく見て年寄りや若いなどによって食事を変えて
その人に合ったものを進めること。

老

ろう

少

しょう

は

糧

かて

を

異

い

にす。

異

糧

※糧と同字

老

少

陽

側室（妾）は糸をつむいだり、

妾

しょう
ぎよ

御

は

績

せき
ぼう

紡

し、

績

紡

妾

御

（朝起きた時には）手拭いや櫛を持って夫君に仕える。

帷

い

房

ぼう

に

侍

じ

巾

きん

す。



支



陽

真

白い絹の団扇は丸く清く、

紈

がん

扇

せん

は

員

まる

く

潔

きよ

く、

員

潔

紈

扇

先文

寒

●先

銀の燭台は灯火が光り輝いている。

銀ぎん
燭しよく
は
瑋い
煌こう

たり。



真

陽